

廃炉および処理水の海洋放出に関する理解醸成活動実績（6 月分）

1. 福島県漁連等、漁業関係者への対応

【 県下組合長会議 】

- 6 月 25 日、県漁連幹部および組合長、組合役員など漁業関係者および水産庁など 50 名に、当社石崎副代表、立地地域室他が廃炉の取組みや処理水の放出状況等について説明。
 - ・冒頭石崎副代表より、今年度第 2 回目の処理水海洋放出期間中に 2 回の放出停止があったこと、および 1～4 号機取水路開渠内で 2 年ぶりに捕獲されたアイナメから高濃度セシウムが検出されたことについて、ご心配をおかけしたことをお詫び。
 - ・野崎会長からは、冒頭の挨拶の中で「今朝の地震において、東京電力福島第一原子力発電所は異常なしとの報告を受けているが、引き続き緊張感をもって従事してほしい」との発言があった。
- 福島県水産海洋研究センターからは定例の海洋モニタリング結果を報告。
- 前回の組合長会議で、陸側と同様に海側で追加被ばく線量の評価は行っているのかとの質問があったことから、内閣府より「福島第一原子力発電所における追加被ばく線量規制と評価」を提示し、海側も異常がないことを報告。

（漁連報告等を含め約 75 分、マスコミ 6 社が取材）

[7 月開催予定] 復興協議会：開催なし／組合長会議：7 月 28 日]

【 漁業者とのコミュニケーション 】

- 7 月 11 日、県漁連が主催するイベント「福島県漁業の今と試食会」が東京築地魚河岸で開催予定。当社は当日の集客に向けた人的支援で協力。

2. 理解醸成に向けた当社の取り組み

（1）廃炉・処理水の理解醸成に向けた取り組み

- 6 月 8 日、1F 視察時の概要説明の際にご覧いただく動画「福島第一原子力発電所は、今～あの日から、明日～」を更新。
- 6 月 9 日、1F2 号機及び 3 号機の廃炉作業進捗状況を広く社会の皆さまにお伝えすることを目的に、廃炉作業を分かりやすく解説した動画を制作し、当社 HP および YouTube に掲載。
- 6月22日、「県内高校生への出前授業」を県立磐城高等学校の2年生6名を対象に開催。参加した高校生からは、「燃料デブリの取り出しが大事とのことだが、何が難しいのか」、「どんな方が視察に来ているのか、海外からも来るのか」等の質問があった。
- 6月24日、IAEAのグロッシ事務局長が1Fを視察。廃炉の進捗について、基本的には「順調」と評価するとともに、処理水の海洋放出の安全性に関しても「間違いなくきちんと行われている」との見解が示された。

- 2026年度第3回（通算21回）の処理水海洋放出について、測定・確認用タンクA群へ処理水の移送完了し、7月2日に分析結果を公表。当社と当社が委託した外部機関および国が行う第三者(JAEA)とともに放出基準を満足しているため、7月6日より放出開始。(7月24日放出完了予定)
- 新聞広告や視察・座談会、FMいわきによる廃炉および処理水理解醸成に向けた放送等は継続的に実施。(別紙「参考情報」参照)
- (2) 1F 取材・視察関係【主な取材／視察団体は別紙参照】
 - ・ 6月17日、いわき市立高久公民館の皆さまを1Fにご案内。「廃棄物の管理は1F構内だけで管理するのか」との質問があった。
 - ・ 1F 視察では、NRA 中山委員長や小森経産大臣政務官、韓国専門家などの海外諸団体に加え、国内でも自治体をはじめ多くの学生の皆さまにもご覧いただいた。
- (3) 風評払拭に向けた対応
 - 「発見！ふくしま」クレジットで対応した主なイベント
 - ・ ふくしまの魅力再発見のYouTube 動画「夢っぺ行ってこっせ」において、アクアマリンふくしま、道の駅いわき・ら・ら・ミュウ、小名浜ディクルーズ等取材。7月下旬に動画配信予定。
 - ・ 6/1～15、郡山市内飲食店 12 店舗で「グルメフェア in 郡山」を開催。「ふくしまディステーションキャンペーン」、「ふくしまの酒・味噌醤油まつり」の期間に合わせ、郡山駅周辺の様々な業態の飲食店と連携し開催。
 - ・ 6/5～9、サカナバック 3 店舗で「発見!ふくしまフェア」を開催。常磐ものヒラメの塩締めと醤油漬けの2種類の味を楽しめる「常磐ものヒラメ二色丼」を販売。

以 上

[参考情報] 廃炉および処理水海洋放出の理解活動等の実績 (6 月分)

1. 処理水等の低減状況 (2026. 6. 25 現在)

- 海洋放出前 (2023 年 8 月) の処理水等の貯蔵量 1, 336, 502m³
- ・ 海洋放出開始以降の処理水の新規発生: +60, 183m³
- ・ 処理水の累計放出量: -156, 947m³
- 現在の処理水等の貯蔵量 1, 239, 738m³
- ・ **減少量: 96, 764m³ (海洋放出前から 7%減少)**

2. 新聞広告による情報提供

- 6月14日、周辺海域のモニタリング状況 (5月分公開データ) [33回目掲載]
※ 茨城新聞は、6月16日に掲載
- 6月28日、2号機使用済み燃料プールからの燃料取り出し作業を6月2日から開始 [30回目掲載]
※ 福島民報・福島民友・河北新報・岩手日報・茨城新聞に掲載 (当社 Web にも同時掲載)

3. リーフレット等による理解活動

- 廃炉情報誌「はいろみち第56号」(6月10日発行) で、2号機使用済み燃料プールからの燃料取り出しについて情報発信。
- 廃炉情報リーフレット「1Fの廃止措置等の進捗状況」(通称「壁新聞」; 6月10日発行) でも、2号機使用済み燃料プールからの燃料取り出し開始を掲載。
- 2F の情報リーフレット (隔月発行) を提供。

4. メディア取材 (6 月実績) [非公開情報]

(国内外) なし

5. 視察関係 (6 月実績) [非公開情報]

(1) 主な 1F 視察団体

- (海外団体等) OECD (経済協力開発機構)、IEG (米国・英国・フランス・ウクライナの原子力関係・廃止措置専門家による団体)、NDF 海外特別委員、世界銀行、韓国専門家団、韓国廃止措置調査団、ミシガン大学、Georgia 大学
- (メディア・マスコミ) 北海道新聞、福島テレビ、福島放送、福島民報社、福島民友社
- (県外官庁・議会) 人事院、経済産業省、復興庁、各府省イノベ関係者、宮城県、青森県、東北農政局、柏崎市役所、大間町役場職員
- (県外団体等) 全国農業協同組合連合会、日本ワカメ協会、東京大学、東京科学大学、弘前大学、東北大学、早稲田大学、あさかの学園大学、高浜町、松下政経塾東北塾員会
- (県内官庁・議会) 福島県海上保安本部、福島県環境創造センター、福島県相双建設事務所、福島市教育委員会、山口のぶお後援会 (県議・郡山)
- (県内団体等) いわき市高久公民館、おおくままちまちづくり公社

〔視察実績（5月末現在）〕 98 団体、1,417 名

＜参考＞2025 年度累計;1,339 団体、20,401 名/2024 年度;1,342 団体、20,542 名

(2) 視察・座談会

〔6 月 13 日開催〕

- ・参加者からは、「今まではマスコミからの情報だけで第三者的であったが、今回構内を視察し廃炉作業に対してどうなっていて、これからどうしていくのか等の理解が深まった」「1F 内に入ったのは初めてで、今日の視察座談会はとても良い機会だった。よりリアルに感じられ、勉強になった」「関東もそうだが、国内の西に行くほど復興や廃炉の関心が低くなっていると感じる」等のご意見や感想をいただいた。

〔6 月 27 日開催〕

- ・参加者からは、「ALPS 処理水は、非常に厳しい基準で運用されていることが実感できた」「廃炉は、うまく進んでいない印象だったが、安全に進んでおり安心できた」等のご意見をいただいた。

6. 風評払拭への取り組み

○継続した取り組み

- ・6/6～7、ビッグパレットふくしまにおいて「ふくしまの酒・味噌醤油まつり」が開催され「発見！ふくしまコーナー」にキッチンカーを4店舗出店。

「野崎洋光シェフ」キッチンカーでは野崎シェフが考案し、郡山の日本調理技術専門学校の生徒が調理補助をした「福弁」を販売。常磐ものの鮓の利休焼きや常磐ものの獅子唐じゃこ炒り煮や常磐もののカツオブレークを使用した冷や汁を提供した。

「麺処ひろ田製粉所」では常磐もののカナガシラの煮干しと、玉鈴醤油の「本醸造醤油」を合わせた中華そば他を販売。

「オチャノマ」では常磐もののあおさのりのフライドポテト他を販売。

「キッチンカーむすびめ」では常磐もののカナガシラの天むす2種他を販売し、福島県産品の美味しさをお届けした。

また、野崎洋光シェフと「発見！ふくしま」公式アンバサダーの箭内夢菜さんがステージショーに出演し、福島県産品の魅力を発信。

- ・6/6～6/7 四季の里（福島市内）で、「手ぶらでBBQ イベント」を開催。
- ・6/20～6/21 グランケット桑折（桑折町）で、「手ぶらでBBQ イベント」を開催。
- ・6/27～29、マルト24店舗で「福島県産品フェア」を開催。

〔発見！ふくしま等での販売促進イベント開催日数〕

○2026 年 6 月末まで延べ 83,146 日（2018.2～／前月比+780 日）

＜参考＞2025 年度 18,577 日（前年度比 +64 日）

以上

※この資料では「ALPS 処理水」を「処理水」、「福島第一原子力発電所」を「1F」と「福島第二原子力発電所」を「2F」と記載しております。